

「二種類の人生」

ピリピ3：15—21

堀田修一 22・2・6

I 二種類の考え方。：15, 16。

1. 間違った考え方。「これと違った考え方」：15＝すでに完全にされている（：12）という間違った考え方。かえって成人でない、成長していない人。主にあって成長し続ける人は、自分が完全であるどころか、ますます自分の罪深さが分かり、謙遜になる。
2. 正しい考え方「ですから（3：1—14を受けて）、大人である人（主にあって成長している者）はみな、このように考え（：8—14）ましょう」：15。主にあって成長し続ける成人は、自分の罪深さがわかり、謙遜になり、自分にではなく、主に望みを置く。ますます主の素晴らしさを深く知る事を求め続ける。「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようとして（主をもっと深く知り主を得る、捕える）追求しているのです」：12。※考え方は非常に大切。私達の行動は私達の考え方に影響される。私達の行動を左右するのは、私達の考え方。私達の考え方が、御聖霊と御言葉により、変えられ続ける時、私達の行動も御聖霊と御言葉により変えられ続ける。「心（原語：思考力、分別、考え方）を新たにすることで、自分を変えていただきなさい（原語：変えられ続けなさい）。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります」（ローマ12：2）。「もしも、あなたがたが何か違う考え方をしているなら、そのことも神があなたがたに明らかにしてください」：15。内住の御聖霊と御言葉により。私も体験して来て今日がある。神のおかげ。私達の間＝祈りつつ御聖霊に頼り、聖書、御言葉を私的解釈をせず、前後関係、文脈、聖書全体、背景（推薦：バイブルナビ）を大切に読み理解する。「ただし、私たちは到達した（原語：到達している）ところを基準にして（原語：同じ、相応しく）、進むべきです」：16。私達が到達した所、段階に相応しく歩むべき。完成は、あせって、ある段階を飛び越して急に得られるものではなく、すでに得た段階から進むことによって到達される。結果、結ぶ実、結実は、神からいただく一日一日の積み重ね、必要なプロセス、段階を踏んでいく事により得られる。※他の分野でも。

Ⅱ 二種類の模範。

1. 正しい模範「私に倣う者となってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください」：17。パウロは自分が完全にされているから、私を見ならう者になってくださいと言っているのではない。：12。パウロに倣うとは、パウロの気質的な特徴や癖や賜物（神が其々に与えておられる能力）等を見習うのではない。そうするなら神から与えられた其々の良さが消え、無理をし、その人らしくなくなる。「一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります」Ⅰコリント7：7。では何を見習うのか→3：7-14のパウロの姿勢。すでに完全にされているのではないと自覚し、主を知り続け主を得る一事に真剣に励む姿を見習う。

2. 間違った模範＝すでに完全にされていると考える人々。高ぶり、他の人を見下げる人。
※証し。

Ⅲ 二種類の人生。

1. 主から離れた滅びの人生。：18, 19。

①：18→キリストの十字架の敵として歩む＝主の十字架（主が私達を心から愛して身代わりに死に、私達の罪を完全に償われた）だけが人々を救うという神からの福音を否定して生きる。主と主の十字架の恵みに拠り頼まず、人間的な義の行いや儀式により救われようとする歩み。「涙ながらに言う」：18。愛あるパウロは、彼らの歩みを悲しんだ。主の心の共有。

②「その人たちの最後は滅びです。彼らは欲望を神とし、恥すべきものを栄光として、地上のことだけを考える者たちです」：19。

i 主と主の十字架の恵みに拠り頼まない人々の最後は滅び。最後に自分のすべての罪の刑罰を受け、永遠に神から離れ、永遠に火と硫黄の中に（黙20：15、21：8）。

ii 彼らの神は彼らの欲望。真の神に拠り頼み神に従う人生ではなく、自分の欲望（原語：腹、おなか、人間の最も奥の内的部分。※日本語で使われる腹→腹黒い）、不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、憎しみ、恨み、ねたみ、酒におぼれる、悪い遊びの欲望にはまり、真の救いではなく、どんどん悪に縛られ滅びに向かって行く。もし、私達が主に捕えられていなかったら、罪の欲望の奴隷だった。主に感謝。※主に捕えられていない私の人生＝罪の欲望を神とし、最後は滅びの人生。しかし、主の救い！

iii 「恥ずべきものを栄光として」。彼らが誇っている栄光は、恥に変わる。人の目に栄光に見えても、腹、心の中は恥ずかしい思い、悪い欲望が満ちている。もし、腹の中、本当の動機、心の中がスクリーンに映し出されるなら恥ずかしくてたまらない。私達も。実は神の目には、すべてが明らか。最後の裁きの時、神の前にすべてを申し開きすることになる（ローマ14：12）。生かされている間に、示された時に罪を告白する者は赦される。主の十字架の血の恵みで。

iv 「地上のことだけを考える者」。神からの栄誉ではなく、地上の人々からの栄誉を考えている。神に喜ばれる事ではなく、地上で自分の欲望を満たす事を考えている。

2. 主を知り、主の素晴らしさを知り続け、天から主が救い主としておいでになるのを待ち望む人生がある。「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます」：20。世の終わりに、世の悪の正しい裁きと主を信じる者の救いの完成のために再臨される。その時、「新しい天と新しい地」（黙示録21：1）が創造される。主にある私達は、地上での主からいただいた使命、責任もおろそかにはしない。地上での使命、責任を果たしながら、地上がすべてではなく、国籍は天にあり、地上での使命を果たし終えた後、天で永遠に神と共に生きる恵み。世の終わり（いつかは人には分からないが、この2千年を経て一日一日近づいている）に主が再びこの世に来られ「キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力（万物の創造者、支配者である全能の神としての力）によって、私たちの卑しいからだ（罪、弱さ、病、衰えるからだ）を、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿（罪も病もない栄光の姿、罪が全くない愛と聖さに満ちた姿、罪のない心と栄光の体）に変えてくださいます」：21。

祈り：罪深い私達を捕え、救って下さった恵み、日々主の姿に変え続け、主の再臨の時、主の栄光の姿に変えて下さる事を心から感謝します。